

長野県に適した乳牛の暑熱対策システムを開発しています

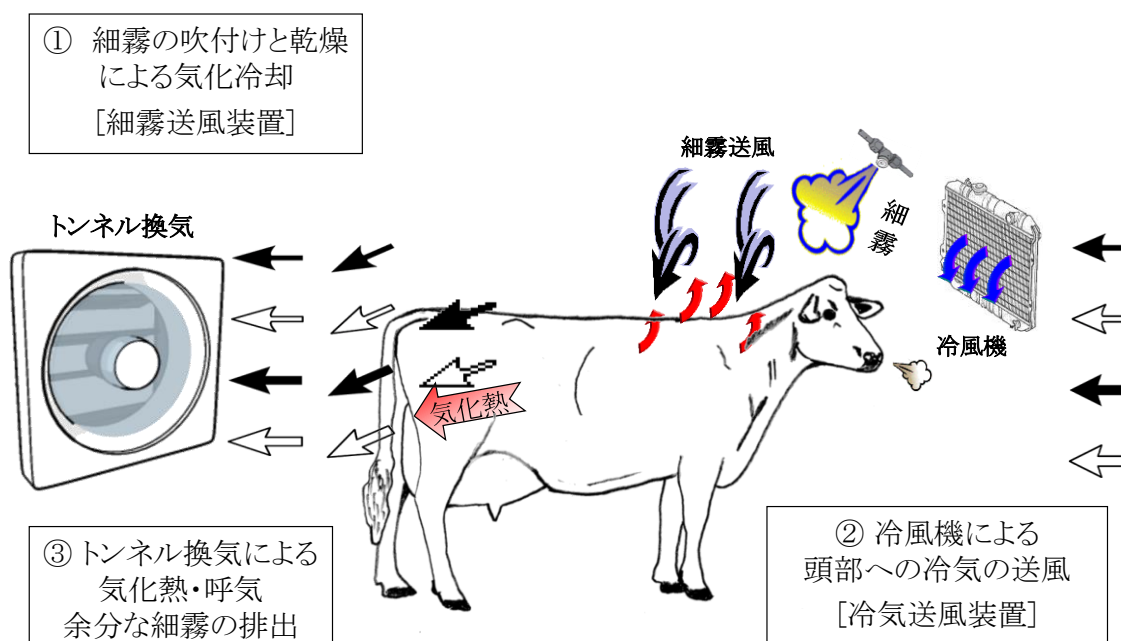
畜産試験場

地球温暖化により夏期の猛暑日の増加が予測され、元々暑さに弱い乳牛の生乳生産の減退が危惧されています。一方、長野県は冬の寒さに対応するため気密性の高い乳牛舎が多く、その構造に適した暑熱対策の確立が求められています。

そこで、畜産試験場では、冷気と細霧の送風を併用した新たな暑熱対策システムの開発に取り組んでいます。このシステムは①牛体への細霧の送風と乾燥（気化冷却の利用）、②冷気送風による牛頭部の直接冷却及び③換気による牛舎内の除湿と気化熱の排出（熱滞留の防止）の3要素から構成され、寒冷地域特有の気密性の高いタイストール（繋ぎ飼い方式）乳牛舎向けとなっています。

これまでの試験からこのシステムは夏期暑熱時の乳牛の体温上昇と採食量及び乳量の低下を抑えられることが明らかとなってきています。

現在、運転コストの低減に向けたシステムの効率的な稼動方法を調査し、今後の生産現場への普及を目指しています。



担当者

岸本 剛

電話番号

0263-52-1188

[知って納得コーナーに戻る](#)

[畜産試験場に戻る](#)